

## Fostering International Sustainability – Satoyama Landscapes in Japan, Germany and Beyond

日本とドイツ、そして世界のさとやま環境



2013年4月6日(土)  
東京大学弥生キャンパス 弥生講堂アネックス セイホクギャラリー  
15:00 - 19:00 (懇親会含む)

### 日本とドイツ、そして世界のさとやま環境 -

#### 生物多様性および生態系サービスの導入による新たな持続的土地管理に向けた構想

生物多様性および生態系サービスは、社会生態学的システム(socio-ecological systems)を総合的に理解する上で重要な概念であり、持続的な土地管理のための指針として発展しつつあります。本シンポジウムでは、日本とドイツの研究者がさとやま環境における生物多様性および生態系サービスの様々な側面に関連する研究成果や進行中のプロジェクトを紹介します。研究のさらなる飛躍に向けたニーズや、この学際的な研究領域における両国の交流および協力を促すための財政的支援についても議論します。

#### Funded by:

German Federal Ministry of Education and Research

#### Promoters:





## 講演者:

武内和彦 (国際連合大学副学長 / サステナビリティと平和研究所 (UNU-ISP) 所長 / 東京大学サステナビリティ学連携機構 (IR3S) 機構長・教授)  
「国際情勢における社会生態学的システムの研究とその適用: SATOYAMAイニシアティブを事例として」

鷺谷いづみ (東京大学教授)  
「日本における生物多様性および生態系サービスの研究 - 近年の動向と未来へのタスク」

吉田丈人 (東京大学准教授)  
「多様なステークホルダーによるチームプロジェクトとしての自然復元: 福井県三方五湖におけるケーススタディ」

平高史也 (慶應義塾大学教授)  
「日本研究プラットフォーム・ラボを通じた国際的な研究協力」

Stefan Hotes (Philipps-University Marburg 研究員)  
「広範なコンセプトのスマールスケールへの適用: 地域レベルで生物多様性および生態系サービスを運用するために」

Fred Jopp (Justus-Liebig-University Giessen 特任准教授)  
「生物多様性への影響評価と生態系サービスの管理に向けたモデリング構想」

佐々木恵子 (Justus-Liebig-University Giessen 博士課程)  
「文化的ランドスケープを対象とした空間明示モデルによる生態系サービスの解析」

Axel Paulsch (生物多様性研究所・ネットワーク理事長)  
「国際政策支援を目的とした生物多様性研究 - 国際連合条約および生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム (IPBES) で明らかになった課題に対応して」

Holger Finken (ドイツ学術交流会東京事務所長)  
「日本とドイツの交流およびコラボレーションに向けた財政的支援」

## パネルディスカッション:

一ノ瀬友博 (慶應義塾大学教授)  
角谷拓 (国立環境研究所研究員)  
高橋俊守 (宇都宮大学特任准教授)  
西麻衣子 (国連大学高等研究所フェロー)  
松田裕之 (横浜国立大学教授)



## Access:

**THE UNIVERSITY OF TOKYO YAYOI AUDITORIUM, SEIHOKU GALLERY**  
東京大学 弥生講堂アネックス セイホクギャラリー (★yellow star)

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内  
TEL : 03-5841-8205

- 東京メトロ 東大前駅(南北線) 徒歩1分
- 東京メトロ 根津駅(千代田線) 徒歩8分

参加費無料

参加申し込み: register@daadjp.com

対象者: 生物多様性および生態系サービスに関する学際的な研究に関心のある研究者・学生・行政官など

言語: 英語 日本語

問い合わせ先: kekule@daadjp.com

